

# 平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立和佐小学校
校長氏名	武本 多香子
作成日	平成27年3月10日

## 1 教育目標

心身ともに健康で、人間性豊かな実践力のある子どもを育てる。

## 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校からの情報提供                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信を積極的に行う。</li> <li>・信頼される学校づくりに取り組む。</li> </ul> </li> <li>* 地域の教育力の活用                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々とのふれあいを大切に交流活動を推進する。</li> <li>・史跡など地域環境や人材を活用した学習活動の充実を図る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自己肯定感や自尊感情の育成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体を通して、生命や人権を大切に心身の教育に取り組む。</li> <li>・児童の『よさ』をみつけ伸ばす教育を実践する。</li> </ul> </li> <li>* 生活指導の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と連携し、基本的生活習慣の定着や規範意識の育成を図る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 確かな学力の定着                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な知識技能の定着を図る。</li> <li>・学習習慣の定着及び家庭学習の充実を図る。</li> </ul> </li> <li>* 校内研修と実践の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に参加し取り組む授業展開を工夫する。</li> <li>・わかる授業により、学習意欲の向上と確かな学力を身に付けさせる。</li> </ul> </li> </ul>

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりを毎月発行し、保護者・学校関係者評価委員・学校評議員の方々に配布するとともに、市役所支所や地元郵便局・農協等にも置いていただき地域にも情報を発信した。特別なお知らせは、地域の回覧板等を通して情報を発信した。また、地域の様々な会議等でも、学校の様子や行事についてお知らせしている。</li> <li>・学校関係者評価委員会や学校評議員の皆様方、地域の方々や保護者の皆様方の意見を教育活動に反映させるよう努力した。</li> <li>・各学年、地域とのつながり(自然・人・もの・歴史等)を大切に、異世代交流を積極的に行うなど、体験活動を重視した。地域の方々や学校の様子を知っていただく機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全集会・防災集会・避難訓練等を計画的に実施し、自他の安全や生命の大切さを学ぶ取り組みをすすめた。ありがとう集会や1年生を迎える集会・6年生を送る集会・和佐っ子フェスティバル等では、豊かな人間性や望ましい集団活動の育成に取り組んだ。</li> <li>・地域の教材や人材、特性を取り入れた学習を展開し、郷土を知り、郷土を誇りに思う心の育成、地域の人々の生き方にふれ、自己の生き方を見つめ直す取り組みをすすめた。</li> <li>・個々の児童の課題を具体的に把握し指導の手立てを工夫するため、毎学期『各学級の実情報告(和佐っ子)』『いきいき和佐っ子生活カード(学校用・家庭用)』『いじめアンケート』を実施している。放課後や休日の生活や時間の使い方を児童自身が見つめ直すため、「チェックカード」を作成し実施している。児童会が中心になり挨拶運動に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向け、昨年に引き続き「国語科における読み取る力の育成」を研究の中心に据え研修をすすめた。子どもたちが、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わえるよう、指導方法の工夫・改善に取り組んだ。各学年研究授業を実施し、協議会の持ち方なども工夫した。</li> <li>・学力定着フォローアップ事業により、講師先生を招くことができ(11回)、授業研究の場でご指導・ご助言をいただいた。</li> <li>・全国学力学習状況調査及び和歌山県学習到達度調査の結果を全教員で分析し、本校の課題が共通理解できた。課題解決に向け、学習タイムや読書タイムの見直しや放課後のスキルアップタイムの導入を行った。</li> <li>・学習環境・校内環境の整備充実に取り組んだ。</li> </ul>
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や学校関係者評価委員、学校評議員の方々の声からはほぼ達成していると思われるが、学校評価アンケートの「教育活動や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝えている」という項目では、3割の保護者が「あまり思わない」「思わない」と回答している。懇談会等を通して、『保護者が知りたいことは何か』を意識しながら、学級だより・学年だより・学校だよりの掲載内容や発行回数などの見直し、ホームページの工夫が必要である。</li> <li>・11月の「ありがとう集会」では、多くの保護者や地域の方の参観を得ることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方や保護者を招待した「ありがとう集会」では、各学年熱心に練習に取り組む心を込めて発表することができた。</li> <li>・「いじめアンケート」の結果や「和佐っ子」の報告を受け、学級指導や個別指導に取り組む、問題行動には全職員で取り組んだ。</li> <li>・地域の高齢者施設の皆さんとの交流では、1年生・2年生・3年生共にとっても温かな時間を過ごすことができた。毎年定期的に交流を進めていきたいと考えている。</li> <li>・子どもたちの会話の中に乱暴な言葉がよく出てくる。なかなか挨拶のできない児童もいる。折に触れ、言葉の持つ力を指導していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科学習を中心に7回校内研究授業を実施し、協議会の持ち方も工夫した。講師による講義・教材研究や授業に対する具体的な指導・助言により、より良い授業づくりに向け研鑽を深めることが出来た。</li> <li>・週4日、各20分間の学習タイムは、国語・算数科を中心に取り組んだ。特に「読み取る力」「筋道を立てて考える力」「粘り強さ」の育成を目指した。資料やプリントの準備や整理をすすめ、更に充実した取り組みにしたい。</li> <li>・毎日読書タイムを実施する中で、家庭でも読書に取り組む児童が増えてきた。今後も、読書の楽しさを伝えていきたい。</li> </ul>
次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の重要性を全教職員が認識し、ホームページや学級だより・学年だより・学校だよりの内容の充実を図り、教育活動や子どもたちの様子を迅速に伝える。</li> <li>・学校評価アンケートや学校関係者評価書の結果を分析・公表し教育活動に反映させる。</li> <li>・地域との交流や保護者との交流を深める機会を大切に、協力関係を築いていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とのつながりを深める活動や異学年交流等、様々な体験活動を通して子どもたちは『こころ』を育ててきている。次年度も、活動を更に充実させ、お互いの違いを認め合える人権意識や自己肯定感を育てていく。</li> <li>・道徳教育、人権教育の充実を図る。</li> <li>・挨拶、掃除、当番・係り活動、言葉づかい等、当たり前のことを素直に真面目に取り組む姿を大切にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎的・基本的な知識・技能の定着」と「基本的生活習慣の確立(チェックリスト・いきいき和佐っ子生活カードなどを活用)」を図り、学力向上に努める。家庭学習の定着を図る必要があるため、「家庭学習の手引」などを活用し保護者に啓発していく。また、国語科を研究教科に据え、教師の授業力を高めるため、校内研修・現職教育の在り方を探る。</li> <li>・教師も児童も、「真剣さ」と「継続すること」を大切に、全ての教育活動に取り組む。</li> </ul>

## 3 その他の課題

- ・教職員が児童に向き合える時間を大切にする。
- ・優れた授業や研究会への参加を促す。
- ・人権・いじめ・体罰等について、教職員の共通理解と意識向上を図る。